

〈福祉〉とは、幸せ、豊かさ。それを実現するヒントを教えてください。人・物・事を、次の4つのキーワードに沿って紹介します。

- # コミュニケーション ▶▶▶ 心理的な壁をなくす、やさしさを育む
- # 暮らす ▶▶▶ 安心できる居場所や暮らしをつくる
- # はたらく ▶▶▶ 自分らしく活動する、成長する
- # 食と健康 ▶▶▶ 食を大切にして健やかに生きる

はたらく # 暮らす

“自分のため”が“誰かのため”になる ～「おもちゃの病院ドクターくるりん」の人たちが教えてくれること～

困ったときに助けてくれる
頼もしい仲間たちと

「結構、重症だね」

「これは、入院だな」

ここでは、そんな会話がたびたび聞かれる。けれど、入院するのは人間ではなくて、おもちゃ。

壊れたおもちゃを修理するボランティ

ア団体「おもちゃの病院ドクターくるりん」^{*1}では、おもちゃを預かることを「入院」、修理したおもちゃを引き渡すことを「退院」と言う。それだけでなく、修理する人を「ドクター」、おもちゃの状態を尋ねることを「問診」、伝票を「カルテ」と呼んだりしている。

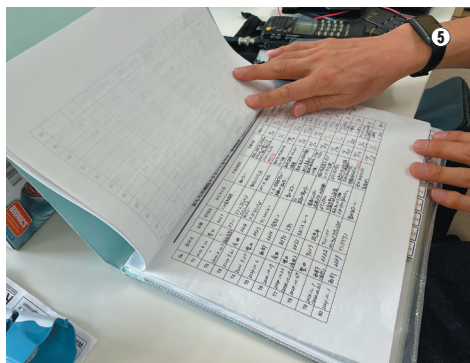
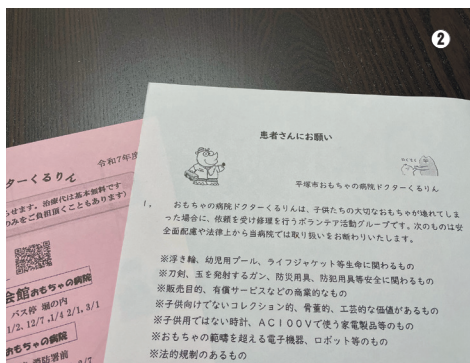
2006年に神奈川県平塚市で立ち上がったこの団体には、現在17人のメンバーが所属している。そのほとんどが70

～80代。ドクターたちを、会計^{*2}、総務、IT（WEBサイト更新などを担当）、事務局を担当する裏方のメンバーたちが支える体制。毎月8回、8つの会場で活動している。これまでに治療したおもちゃは9,761個（2025年9月末現在）。きっと、その数と同じだけの子どもたちを笑顔にしてきたのだろう。

持ち込まれるものは、縫いぐるみを縫うような簡単なものから、電子基板の知

取材・文 小笠原 綾子

ライター・編集者としてインタビュー記事作成や印刷物の制作に携わる。表立って語られることのない個々のこだわりや小さな営みに関心がある。散歩や旅行が好きで、旅先での人やモノとの一期一会を大切にしている。



①「問診」と称する受付で、どんな症状なのかを確認する。②依頼主に渡す「患者さんへお願い」。「色々なトラブルがあったりしたから、問題をなくしていこうよって、みんなで話してつくったの。ちょっとずつ更新して」と、事務局担当の金丸さん。この活動の試行錯誤が垣間見える。③「子どもたちの喜ぶ顔を見ることが、なんといつてもうれしい」と、ドクターたちは口を揃えて言う。④ ユニフォームとなっているエプロン。⑤眞田ドクターの修理ファイル。対処の履歴だけではなく、修理に費やした時間や、ABCDで自己評価もつけている。⑥ 高橋ドクターがストックしている電池バネ端子。あらゆるケースに対応できるように、さまざまなサイズのものを取り揃えている。